

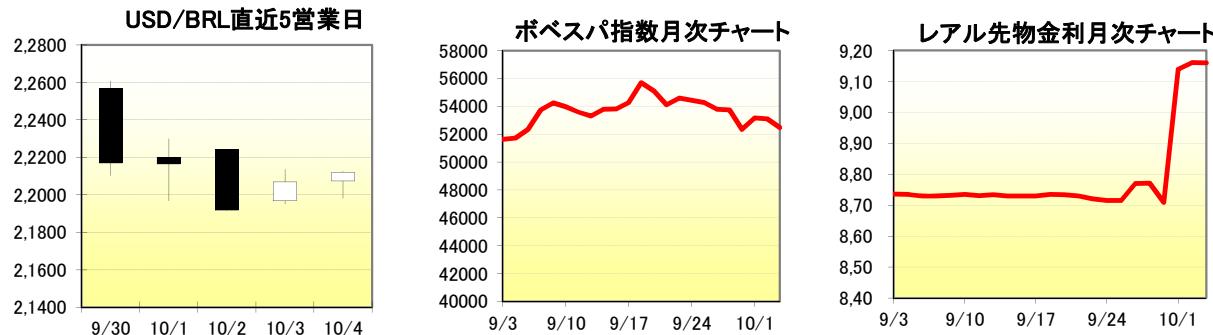
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,2150	2,2240	2,1960	2,2010	2,2120	+0,0110
	USD/YEN	Spot	98,24	97,97	97,40	97,29	97,48	+0,1900
	EUR/USD	Spot	1,3524	1,3532	1,3585	1,3618	1,3554	-0,0064
	BRL/YEN	Spot	44,29	44,07	44,43	44,10	44,07	-0,0300
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,22	1,20	1,08	0,82	1,22	+0,4006
		1Year(p.a.)	1,48	1,47	1,35	1,38	1,48	+0,1000
	Real Interest	6MTH(p.a.)	9,62	9,67	9,69	9,78	9,64	-0,1422
		1Year(p.a.)	10,08	10,12	10,16	10,01	9,99	-0,0275
Stock	Bovespa		52.338	53.179	53.100	52.490	52.849	+359,11
Bond	CDS Brazil 5y		173,84	176,74	171,88	171,88	166,67	-5,2050
	Global 40		117,500	117,400	117,100	117,250	117,250	u.c,

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	なし
自動車生産台数	--	332029	340469	
自動車販売台数	--	309872	329143	
自動車輸出	--	45495	64071	

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2.2570 で寄り付いた。
- 週初のレアルは週間安値となる U\$1=R\$2.2570 で寄り付いた後、月末の PTAX 決定に向けてのドル売り需要が強く、レアルは終日買われる展開となり、2.2200 まで上昇した。
- 翌 1 日には米政府機関の一部閉鎖を受け、金融当局が資産購入を続けるとの思惑が強まるとドル売りが優勢になつたほか、大口の資金流入が見られるとレアルは 2.2000 を上抜け続伸するも、じりじりと 2.22 台前半まで売り戻された。
- 週央には薄商いとなる中、伯中銀によるドル売り介入に加え、PTAX 決定に向けてのドル売りが見られるとレアル買いが優勢となった。更に朝方発表された米民間雇用統計で雇用の伸びが予想を下回ったほか、米政府機関の一部閉鎖を受けて金融当局は近く緩和策を縮小させることはないと見方が再び強まり、レアルはその後もじりじりと上昇、週間高値となる U\$1=R\$2.1960 を付けた。
- 翌 3 日には米政府機関の一部閉鎖が 3 日目を迎えるリスクオフモードとなる中、レアルは方向感に乏しい展開となり 2.20 台半ばを中心とした小幅な値動きとなつた。
- 週末にかけては米政府機関閉鎖に伴い景気刺激策の縮小開始時期を検討する米金融当局者は経済データ不足に見舞われ景気判断が難しい展開となつたほか、米格付け会社が「低成長の長期化」を理由にブラジルのアウトロックを引き下げたことが嫌気され、レアルは小幅ながらも下落、結果 U\$1=R\$2.2120 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧説を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
10/7	貿易収支(週次)	Oct 6	--	--
10/8	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	Sep	1.50%	0.46%
10/8	FGV CPI IPC-S	Oct 7	0.33%	0.30%
10/9	FIPE CPI-週次	Oct 7	0.30%	0.20%
10/9	IBGEインフレIPCA(前月比)	Sep	0.34%	0.24%
10/9	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	Sep	5.86%	6.09%
10/9	CNI設備稼働率(季調済)	Aug	--	82.2%
10/9	SELICレート	Oct 9	9.50%	9.00%
10/10	IGP-M Inflation 1st Preview	Oct	--	1.02%

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.18-2.30

今週はドル売り需要が多く見られたほか、米政府機関閉鎖を受けてリアルは2.2000水準まで買い戻されるも、市場では様子見する投資家が多く見られ、リアルの流動性とボラティリティーが低下している。米政府機関閉鎖を受けて今週は雇用統計の発表が延期され、来週にかけても閉鎖が続ければ小売売上高などの経済データの発表が延期されることになる。米金融緩和縮小のタイミングを見極めるデータが不足する中、米FOMC議事録の発表は平常通り行われ、市場での注目は大きい。同FOMCの声明では「資産購入ペースの調整を行う前に、情勢の改善が持続的なものになるというさらなる根拠を待つことを決めた」とし、バーナンキFBR議長は会見で「今日の労働市場をめぐる状況は、われわれ全員が望むような状態からは程遠い」と述べたことから10月のFOMCでの緩和縮小の有無を探る上で、委員の見解などに注目が集まる。国内では米格付け会社によるアウトロック引き下げも発表され、今後の成長への期待が薄れており、今後の経済指標が注目されるだろう。また、来週は伯金融政策委員会(COPOM)の開催が予定されており、0.50%の利上げが予想される。海外要因を受けてリアル相場の流動性が低下する中、予期せぬイベントで大きく動く可能性があるため、引き続き注意が必要であろう。